平成 27 年度　第３回図書館協議会　会議録

日　時　平成 28 年 3 月 29 日(火)13:30～14:45
会　場　図書館本館　会議室
出席者:(委員)　会長ほか委員 4 名
(事務局)　教育部次長(社会教育)・図書課長・主査2名

１．開　会

２．挨　拶
(協議会会長挨拶)
(教育部次長挨拶)

3.　説　明
①恵庭市立図書館指定管理者制度導入検討について
(事務局説明)

質疑

A委員　ご意見をいただきたい。なければ私から図書館の予算の内訳を見ると図書館運営費の図書の購入費が15%、子ども読書推進費の資料費が 2%、合計で 17%。それ以外は管理運営費用が占めており、施設の管理費というものは、大きくかかるのだと感じる。大変良くまとまった説明を受けたが、これから図書館への指定管理者制度を導入していくにあたって、まだ具体的なイメージが持てずにいる。

事務局　指定管理者を導入している道内の市区図書館の事例で言いますと、電子図書館の設置ですとか、開館日拡大など新しいサービスを導入時に開始しています。恵庭市も図書館のサービスの拡大として、利用者の皆様が何を求めているのかを重視しております。利用者アンケートを年に1回行っていますけれども、そのなかで1番要望の多いものが「図書館資料の充実」です。先ほど予算全体に対して 15%しか資料費がないというご指摘もあったなかで、こうした要望にこたえる提案等も指定管理者募集に当たっては求めてゆきたいと考えています。一方ボランティアの方々の要望としては、今後も活動を続けることはもちろんのこと、さらにボランティア活動を進化させたいという意見をいただきました。指定管理者導入の際にはこうした要望にこたえるための仕組みづくりも大切だと考えています。

A委員　図書館資料の充実という要望についてだが、これは確かに大切だけれども。もはや物理的に恵庭の図書館は、容量としてぎりぎりではないか。物理的収容力が限界の中で資料の充実をどうしてゆくのか。文学全集などは読書を楽しむというより少し研究の視点が必要になる。全集本という視点では私はここの図書館には物足りなさを感じているが、それが市民全体のニーズではないだろうし。蔵書すべき資料という基準に対しても時代に沿った変化が求められているのだろう。

B委員　　図書館のサービスの拡大について、今後どうなってゆくのかを今の段階で示してゆくのは難しいと思う。しかし、それであっても説明に具体性がないとわかりにくい。市民に関わる情報の管理は市が行ってゆくと資料にあるが、この部分ははっきりとしている。将来像の中でこのように明確に示せるもの、サービス拡大のように事業者の提案に待つもの、提示の仕方は難しいところがあるけれども、出来るだけわかりやすい資料提示をしたほうがよい。

事務局　指定管理者の募集の場面では、事業者側の提案を発注者側として市が評価する立場なので。それを先行して、市民に拡大内容を示しにくいというのは事実です。ただ恵庭市の図書館はこうした到達点を目指している。利用者のニーズはこうである、という資料はすべて示した中での公募選考になりますので、目標と課題は事業者に吸い上げられ提案として帰ってくるものと期待しています。

C委員　ボランティアに携わっている人たちが一番不安に思っているのが、今後どうなるかわからないという部分だと思う。図書館サービスの拡大は、言ってみれば要望を聞いていればきりがないものである。ボランティアに対してひとりひとりに安心してもらう姿勢と説明を優先すべきである。

事務局　次回さらに具体的な提案を、ボランティアの皆さんにご説明する場を設ける予定です。

②　平成28年度　図書館関連予算について
（事務局説明）

A委員　電子図書というものの、ニーズはあるのか。

事務局　　図書館向けの電子図書は、著作権の許可のあるものがすくなく、蔵書的には充実したものにはまだならないと思います。

③　平成 27 年度　読書活動推進事業の実施について（上半期）
（事務局説明）

D委員　「ぬいぐるみのお泊り会」とは。

事務局　お子さんが自分のお気に入りの「ぬいぐるみ」を図書館に持参し、読み聞かせの会に参加したあとぬいぐるみだけ図書館に置いていってもらい、図書館の色々な場所を体験するというストーリーを写真撮影して、子どもたちひとりひとりにミニアルバムとしてお渡しします。その際にお勧めの本をぬいぐるみと一緒に撮影して、参加した子どもたちに次の読書への促しも行います。結果、参加したうちほとんどのお子さんが、推薦した本を借りてゆくという実績になっています。

E委員　多数応募があったそうだが、どれくらい来たのか。

事務局　　先着順にしたのですが、募集開始したその日の午前中に定員に達してしまいました。締め切り後の

受付数は数えていません。

E委員　せっかくそれだけ人気があるのならば、希望者全員を受け入れるような工夫は出来ないのか。作業量として大変なのであれば、しかるべき団体と共同開催してはどうか。

事務局　この催事は好評につき、下半期にももう少し募集人数を増やした形で開催しました。選考も抽選会方式にしました。希望者全員を受け入れたら、という案もあったのですが、ぬいぐるみの数だけ様々なカットを撮る撮影やアルバムの編集の手間が大変ということで、このような募集にさせていただきました。

E委員　他の市民活動をしている団体と実施すれば、負担が軽くなるのではないか。連携すればそこから情報も広がるのではないか。

C委員　連携事業となると、別な負担が発生するのでは。

事務局　業務量を軽くするための連携は考えていませんが、むしろ市民から声がかかればお手伝いはしたいと考えています。

A委員　報告は以上としたいと思います。他に提言や情報提供はありますか。なければ議事進行以上として、事務局へ返します。

事務局　今回の会議は委員の皆様の現任期の最後の会議になりますので。お礼を兼ねまして次長より、最後にご挨拶申し上げます。
（教育部次長挨拶）

（14 時 45 分　終了）